

# 令和6年度の学校評価

本年度の 重点目標	① 安全で安心できる学校づくり ② 個に応じた教育活動の充実 ③ 学校からの発信力の強化		
項目 (担当)	重点目標	具 体 的 な 方 策	留 意 事 項
小学部	円滑で明るい人間関係や主体的な取り組みを育成するために、安心安全な環境の中で創意工夫をしながら、児童の持っている能力を最大限に引き出し、将来の社会自立に向けての力を高めていく。	・挨拶や相手を思いやる気持ちなどの円滑な人間関係や、要求や報告などのコミュニケーション能力の育成を、学校生活全般を通して支援する。  ・児童一人一人の課題や目標について、保護者や職員間で共通理解を図り、自立活動をはじめとした学校生活全般をとおして、ICTの効果的な活用などで、児童自身が課題を理解しながら主体的に取り組めるよう支援する。また、保護者に対して進路に関する情報を的確に提供できるようにする。	・将来の社会生活を営む上での基礎的な力である挨拶や返事が自発的に言えることや、自分の要求や体調をスムーズに伝えられることを、個々の実態に応じた表現の仕方で行えるように丁寧に支援していく。また、周りの児童が素直に「ありがとう」とお礼が言えるようにする場面を多く取り入れることで、友達を思いやる心や明るい人間関係を育成する。 ・保護者と具体的な支援方法についての情報交換を行い、学校と家庭が連携しながら支援をしていく。また、児童一人一人を全職員で見守るという意識を持ち、学校生活全般を通してICT活用など効果的な補助具の使用や学習環境を整えることで、児童が「やってみよう」と主体的に取り組めるようにする。また、保護者に対しての進路に関する情報提供については、本校のキャリア教育や高等部卒業後の進路先など、進路指導担当職員だけではなく、小学部職員も研修を重ね、保護者の将来の進路に関する悩みや相談に対してできる限りの確に情報を提供できるようにしていく。
中学部	地域社会に興味をもち、様々な活動を通して学習を深める。自らの役割を意識して主体的に物事に取り組み、伝える力を身に付け、健康な心と体で最後までやり遂げられる生徒を目指す。	・地域の名称と一緒に、特産物や歴史、交通機関を関連付けて学習する。また、防災と関連付けて、災害が起きたときの生活について学習内容に組み入れる。 ・自立活動や生活単元学習を中心に清掃について学び、技術だけでなく他者のために活動する素晴らしさを実感できるようにする ・生活単元学習のモデル案を見直し、より良い教育活動の基礎になるようにする。 ・ICTを活用してコミュニケーション力の向上を図る。 ・心身ともに健康な生徒の育成のため、適度な運動と食事を推進し、小さな変化も見逃さずに生徒の状態を確認し、家庭と連携して健康の維持を図る。	・模型を使って形や大きさを具体的に示し、合わせて最寄り駅や電車の利用方法について学び、身近なものとして興味・関心を高める。  ・活動に対して感謝の言葉を繰り返し伝えて意欲を高め、主体的に取り組む姿勢を育成する。 ・他学部とも連携し、広い視野で見直しを行うようにする。  ・コミュニケーションのアプリを授業で実践して、まとめる。 ・少しでも異変を感じたら、複数人で確認して、検温や脈拍の確認を行う。

<p>高等部</p>	<p>・良き社会人として生活する力を身につけ、健康な心と体で責任をもって行動できる子を育てる。</p> <p>・卒業後の進路を見据えながら生徒個々の働く力を伸ばす。</p>	<p>・コース別の支援などを通して卒業後の職業生活、社会生活、家庭生活に必要な力を伸ばす。</p> <p>・生徒一人一人に対して的確なアセスメントを実施したり、生徒の課題や支援方法を学校、家庭、関係諸機関とで共有したりすることで、実態や特性に応じた生徒指導、進路指導の充実を図る。</p> <p>・初任者研修をはじめ校内の研修を通して、教員としての資質向上が図れるようにする。</p> <p>・各学年が集団としてのまとまりをもちながら、生徒一人一人に行き届いた指導を心がける。</p>	<p>・生徒一人一人に合ったコースを選択することで、より高い職業生活や社会生活、家庭生活に必要な力を育成することを目指す。</p> <p>・高等部の生徒たちは、日々のストレス、思春期からの精神的不安定さや障害特性等から、生徒一人一人の指導に難しさがある。生徒の行動や言動をしっかりと受け止めながら寄り添った支援を心がける。</p> <p>・研修課題や授業研究等に取り組んだり、今年度2年目になる全校研究にも絡めたりしながら、ICT 機器を十分に活用した授業実践を進める。日々先生方が実践できる環境を整えていき、引き続き個々の生徒に合ったアプリ等を活用、工夫しながら授業実践を進める。</p> <p>・アセスメントや日々の学校生活を通して、生徒一人一人の生徒の理解を深め、生徒の「できた」という達成感を味わったり、「やってみたい」という活動を進んで取り入れたりするよう心掛ける。</p>
<p>総務</p>	<p>・各行事の案内状や行事予定の内容や配布方法を精選していく。</p> <p>・駐車場をより分かりやすく提示する。</p>	<p>・グループウェアや Formsなどの ICT を活用してペーパーレス化や簡易化できるようにする。</p> <p>・グループウェアや職員室の掲示板を活用して全職員に分かりやすく周知できるようにする。</p>	<p>・ICTについてはマニュアルを作成する。</p> <p>・1年かけて職員の意見や案内状の傾向を蓄積して、よりよい方法にしていく。</p> <p>・年度初めに職員に提示するとともに、変更や追加等があったときにはグループウェアに速やかに掲載し、周知していく。</p>
<p>教務</p>	<p>・個に応じたきめ細やかな指導・支援に努める。</p> <p>・教育活動の充実を図る。</p>	<p>・諸帳簿等を活用し、職員間、保護者と共通理解をもって指導・支援ができるようにする。</p> <p>・児童生徒に合った教材・教具の活用や工夫ができるようにする。</p> <p>・行事や授業での反省を踏まえて関係職員で学習内容の見直しを図る。</p>	<p>・「年間指導計画」や「個別の指導計画」、「個別の教育支援計画」を有効活用し、児童生徒の課題や指導・支援方法について共通理解を図る。</p> <p>・校内の教材ライブラリーの充実を図る。</p> <p>・教科・領域会等で課題や学習内容を整理し、児童生徒の実態や発達段階に応じた学習内容を設定する。</p>
<p>自立活動</p>	<p>・自立活動ハンドブックを作成する。</p> <p>・本校オリジナルの自立活動チェックシートを作成する。</p> <p>・外部専門家活用事業を通して職員の専門性の向上を目指す。</p>	<p>・他校や他県のハンドブックを参考にしたり、本校の自立活動通信の内容から重要な部分を抜粋したりして、1年かけて作成していく。</p> <p>・他校や他県のチェックシートを参考にし、本校職員にとって使いやすく児童生徒の的確な実態把握の一助となるものを1年かけて作成する。</p> <p>・外部専門家との日程調整や、助言を希望する職員の人数調整を行う。</p>	<p>・学習指導要領や解説等の内容と照らし合わせ、矛盾点がないかどうかを丁寧に確認する。</p> <p>・作成した物を分掌職員や教科領域会の職員で試行し、問題点を洗い出してブラッシュアップしていく。最終的には全校職員で内容を確認できるようにする。</p> <p>・助言いただいた内容は、他の職員の参考にもなるので校内で共有できるようにする。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立活動検討会の運営体制を整える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度の反省を受けて、より充実した会になるよう整備する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分掌内での業務内容の割り振りを明確にする。</li> </ul>
教育支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学校のセンター的機能を発揮し、ニーズに応じた相談支援活動に取り組む。</li> <li>・校内支援体制を整え、児童生徒への支援の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の小中学校及び高等学校のニーズを把握した相談活動を行い、障害特性や支援方法の情報提供をする。</li> <li>・様々な教育的ニーズに対応できるよう、関係校務分掌と連携しながら特別教育コーディネーターの資質向上に努める。</li> <li>・チーム支援の視点を重視し、支援会議の実施やスクールカウンセラー等を活用する。必要に応じて校内支援委員会を開き、校内で包括的に支援できるような体制を整える。</li> <li>・教職員のスキルアップにつながるよう、グループウェアを活用して特別支援教育に関する情報発信に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育コーディネーターを中心に、複数体制で相談活動を行い、研修・実践を重ねてよりよいサポートができるようにする。</li> <li>・地域の関係機関や校内で役割分担をし、連携や情報共有に努めて継続した支援につながるようコーディネートする。</li> </ul>
研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研究を通してICTを効果的に活用した指導を促進し、ICT活用事例集の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループウェアで公開授業の参観を積極的に呼びかけ、効果的な活用方法について活発な意見交換ができるようにする。</li> <li>・情報研修や夏季実践教育講座において、ICT活用例を紹介したり、操作体験したりする研修を計画し、実施する。</li> <li>・月に一回、ICT活用例をグループウェアに掲載する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループウェアに掲載する書式を統一し、公開授業日や時間、活用方法等をより分かりやすく伝える。</li> <li>・情報部と連携し、外部講師による研修を計画する。</li> <li>・他校の事例などを中心に掲載し、活用の幅を広げることができるようにする。</li> </ul>
図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本や図書室を活用した授業を支援し、職員が利用し易い図書室環境の整備に努める。</li> <li>・児童生徒の読書意欲を高め、読書活動のきっかけを作る手助けをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員が授業で活用できる蔵書の紹介や読書教材の提供を行ったり、本を使った授業実践の取組を取りまとめて紹介したりする。</li> <li>・蔵書の配架方法の改善や、興味関心を高める掲示・展示などを行う。</li> <li>・図書室行事では、他の分掌等と連携したり、児童生徒の実態を考慮したりして、より楽しめる内容を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材ライブラリーや全校研究の取組など、過去の実践を掘り起し、職員の負担に配慮しつつ、本を使った授業実践を紹介する。</li> <li>・プレゼンテーションソフトを使った読書教材を分かり易く整備・紹介する。</li> <li>・閲覧頻度の高いシリーズや作者の蔵書をまとめ、本を探しやすい環境を整える。</li> <li>・読書週間では、児童生徒がより取り組みやすい内容を工夫し、給食の献立に関連した栄養教諭との共同企画を継続する。</li> </ul>
情報教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページの充実</li> <li>・児童生徒・指導者のICT活用の促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間計画に基づいて、学年ごとの活動の様子を紹介したり、特色ある取り組みや成果を掲載したりする。</li> <li>・児童生徒用端末のプリンタの整備をはじめ、活用しやすいアプリを導入紹介する。</li> <li>・指導者の多忙化解消や授業づくりを資する専門研修を実施したり、資料を提供したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・更新に伴う業務が職員の負担にならないように留意し、学校だより等の配布文書を参考にしたり、写真とコメントを情報部主導で作成したりして内容を構成する。</li> <li>・研修部の実施する研修機会と連携し、専門家による研修機会を設定する。また、職員が個々の予定や時間に合わせ、必要に応じて適宜学ぶことができる動画や資料を共有できるものを設ける。</li> </ul>

生徒指導	<p>・災害時に活かすことができる避難訓練を計画し、実施する。</p> <p>・スクールバスのより安心で安全な運行を目指す。</p>	<p>・本部職員の役割と担当を決め、災害発生時のフローチャートに明記する。</p> <p>・いろいろな災害を想定して実施する。</p> <p>・初めの一ヶ月程度スクールバスの運行状況をしっかりと把握し、ダイヤを見直してダイヤ通りの運行ができるようにする。</p> <p>・スクールバスのバス停の利用状況等を職員間で共有し、学校全体の課題として捉え、対応ができるようにする。</p>	<p>・本部職員の役割を誰が担うのかを示しておくことで、管理職や生徒指導主事などが不在の場合でも円滑に役割分担ができ、本部が運営できるようにする。</p> <p>・放送機器が使えない、校舎が崩れて通れない場所があるなど実際に災害が起きた場合を想定して訓練する。</p> <p>・スクールバスの運行状況の記録を複数の職員で見直すことで、いろいろな視点から考えるようにする。</p> <p>・スクールバスの運行上で何か課題が生じた場合は、グループウェア等を活用して職員間で共有する。</p>
保健	<p>・安全に水泳指導の実施を行う。</p> <p>・飲食を伴う活動への対応の見直しを図る。</p> <p>・清掃区域の分担と実施の徹底を図る。</p>	<p>・保護者への「泳力調査」の依頼を行う。</p> <p>・全職員を対象に救助法、プール場の使用方法等、全職員を対象に職員研修を行う。</p> <p>・飲食を伴う活動を立案する際の手順を見直し、職員に周知する。</p> <p>・安全点検簿の様式の見直しを行う。</p>	<p>・水泳指導実施に向けて把握した実態調査を基に授業単位で確実に情報を共有し、個の実態に応じて安全に実施する。</p> <p>・プール場の使用方法をわかりやすくまとめ、衛生管理や施設設備の利用に関しても安全に進められるようにする。</p> <p>・立案者のみでの対応にならないよう保健部が確認に入り、多くの目で実施内容を確認していく体制を作る。</p> <p>・担当者が責任をもって、危険箇所や清掃状況の把握や報告を確実に行うことができるようグループウェアや安全点検簿を活用し、周知する。</p>
進路指導	本校で行われているキャリア教育の取組や進路選択に必要な情報の提供を充実させる。	<p>・職員への情報提供や研修の機会を増やし、職員全体で進路に関する情報を保護者に提供することができるようにする。</p> <p>・進路だよりなどを通じて、本校のキャリア教育の取組の情報を掲載すると共に、保護者のニーズに沿った情報を発信する。</p>	<p>・進路説明会や懇談会の前に内容について担任と情報共有をする。</p> <p>・研修部と連携を取りながら、職員への研修内容を充実させる。</p> <p>・保護者から、年度初めにアンケートを取ったり、懇談会やパンフレット閲覧会などで質問のあった内容を収集したりして、ニーズに沿った情報提供をする。</p>
学校関係者評価を実施する 主な評価の視点		<p>① 児童生徒の健康や環境を適切に管理し、健康で安全な学校生活を送れるようにする。</p> <p>② 教員研修及び校内研究の充実を図り、質の高い教育活動を提供する。</p> <p>③ 児童生徒一人一人の正確な実態把握に努め、個に迫った目標を設定し、教育活動を進める。</p> <p>④ ホームページの充実を図り、授業や学校生活の様子に関する情報提供を行う。</p>	